平成24年度 別海町立野付中学校 自己評価・学校関係者評価評価書及び報告書

校長名	大　森　　伸
作成日	平成 25年　3月 22日

1 学校の教育目標

精一杯努力し、逞しく生き抜く人間の育成

進んで学ぶ意欲　（知）
助け合い、磨き合う姿勢、社会の一員としての自覚　（徳）
健康で明るい心 （体）

2 学校の経営方針

1 一人一人を大切にし、良さや可能性を伸長させる教育の推進
2 学習意欲を高め、「確かな学力」を定着させる教育の推進
3 「健やかな体」と思いやる心や感動する心など「豊かな心」を育てる教育の推進
4 研修の充実と経営参画意識を高める学校経営の推進
5 保護者・地域の期待に応え、信頼される学校づくりの推進

3 本年度の重点目標

学校に来るのが楽しみであり、野付中学校の生徒であることに誇りを持つ生徒の育成を目指し

1 挨拶・返事・場に応じた言葉遣いができ、いじめがなく、明るく仲良く自主的な活動の出来る生徒の育成を図る。（生活を高める）
2 授業を大切にし、家庭学習に継続して取り組み、学力の向上をめざす生徒の育成を図る。（意欲を高める）
3 地域行事に積極的に参加し、地域の良さを学び、ふるさとを大切にする生徒の育成を図る。（心を高める）

4 自己評価・学校関係者評価の結果と改善の方策　※評価　A～十分に　3．51～4．00　B～概ね　2．51～3．50　C～あまり　1．51～2．50　D～全く　1．00～1．50

NO	自己評価の結果				学校関係者評価の結果		
	評価項目		達成状況	達成度	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	達成状況、自己評価に基づく改善の方策等についての意見等
	大項目	小項目					
1	学校経営	○経営方針に基づき推進し、保護者・地域の期待に応え、信頼される学校づくりに取り組んでいるか。	A	3.70	A 3.83	A 4.00	・具体的方策に期待します。
		自己評価結果の考察と課題に対する改善策 ◎学校の活動方針、諸活動の様子等、保護者・地域への情報提供が適宜行われ、連携・協力が図られている。 ●旅行的行事、学校行事等、教育課程を見直し、より系統的・横断的な内容にしていく。 ●職員の協働体制及び各分掌間の横の連携強化と前年度踏襲型からの脱却を図る。			**課題の改善に向けた具体的方策** ・各旅行的行事、学校行事のねらいを明確にし、3年間系統立てた全体計画を作成する。 ・技術家庭の前・後期制、数学科における全学年TT授業の実施等、効果的な授業進度、学力向上の手立て等を図る。 ・平成26年度からの評価の2期制実施を目指し、計画案の作成、授業時数と指導内容の進行管理、行事の精選を行う。		
2	方針・重点	○学校に来るのが楽しみであり、野付中学校の生徒であることに誇りを持つ生徒の育成を目指し、重点目標に取り組んでいるか。	A	3.60	A 3.83	A 3.83	・特に問題視されるいじめ、この事については指導の徹底をお願いしたい。
		自己評価結果の考察と課題に対する改善策 ◎いじめがなく、明るく元気に学校生活を送り、行事などにも意欲的に取り組み充実している。 ●重点目標の一つである「元気に挨拶」については、まだ不十分であるため取り組みの強化を図る。 ●学力向上に大きく影響する家庭学習の習慣化が不十分であるため、取り組みの強化を図る。			**課題の改善に向けた具体的方策** ・生徒会を中心とした「挨拶運動」の活性化を図る。 ・習熟度に応じた家庭学習の手引きの作成と保護者へ生活習慣の改善の協力、家庭学習を授業に生かす取り組み等を行う。		
3	学習指導	○学ぶ意欲の向上と基礎基本の確実な定着を図り、確かな学力を一人ひとりの生徒に身につけさせる学習指導に取り組んでいるか。	B	3.00	B 3.33	B 3.50	・具体的方策に期待します。 ・夏休み・冬休みの学習サポート、大変良かったと思います。休みの後半だけでなく、中頃から行っても良いのかと思います。
		自己評価結果の考察と課題に対する改善策 ●「わかる・できる」を実感できる授業を目指した校内研修を計画的・組織的に実践していく。 ●基礎的・基本的な学力の定着を図る取り組みが不十分であるため、より効果的な取り組みを図る。 ●言語活動を重視した取り組みのねらいが不明瞭だったため、ねらいを明確にした取り組みを実践する。			**課題の改善に向けた具体的方策** ・定期的な校内研修の実施、校外の研修等への積極的な参加及びその還流を行い、職員の資質向上を図る。 ・学習規律の徹底指導、授業評価による授業改善を図っていく。 ・学力下位層の生徒の基礎的・基本的な学力の定着を図るため放課後学習、長期休業中の学習サポートを計画的に実施する。 ・スピーチや弁論大会等のねらいの明確化、目的意識の高揚、実施方法の改善等を図る。		
4	道徳教育	○豊かな人間性を目指し、思いやりの心を育て、道徳的実践力を身につけさせる道徳指導に取り組んでいるか。	B	2.90	B 3.33	A 3.67	・社会に出てから、いかに道徳教育が必要であったかを実感する場面が多い事から、具体的方策に大いに期待します。
		自己評価結果の考察と課題に対する改善策 ●道徳教育の全体計画が十分機能していないため、道徳教育の研修の強化を図る。 ●心のノートが十分に生かされていないため、年間計画への位置づけを図る。			**課題の改善に向けた具体的方策** ・道徳推進教師を中心に道徳教育の全体計画の再確認、「道徳の時間」のねらいの明確化を図る。 ・学校の教育活動全体で、計画的に心のノートの使用を位置づける。 ・年度当初の参観日で、全学級で道徳の授業を公開する。		
5	特別活動	○学級（学年）・生徒会活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動に取り組んでいるか。	B	3.10	B 3.33	B 3.50	・具体的方策に期待します。
		自己評価結果の考察と課題に対する改善策 ◎全校生徒が意慾的に行事に取り組み、生徒一人ひとりにとって充実した活動になっている。 ●生徒会活動が、主体性・積極性に欠けるため、生徒自身の創意工夫を生かせるような指導を行う。 ●学校行事及び生徒会行事の見直し、精選を行う。			**課題の改善に向けた具体的方策** ・生徒会書記局を中心に生徒自身に考えさせる機会を多く取り、自ら取り組ませることで、達成感をもたせる。 ・各行事のねらいを明確にし、より効果的な内容になるよう取り組み方法の改善、精選を図る。		
6	総合的な学習の時間	○各教科との関連を図り、課題解決能力や探求心を育成する総合的な学習の時間に取り組んでいるか。	B	3.20	B 3.17	B 3.33	・具体的方策に期待します。
		自己評価結果の考察と課題に対する改善策 ●各取り組みのねらいが明確になっていないため、ねらいの明確化、系統化、他教科との関連化を図る。 ●総合的な学習の時間として適切ではない内容があるため、全体計画の見直しを図る。			**課題の改善に向けた具体的方策** ・各内容（環境教育・キャリア教育・北方領土学習等）のねらいの明確化、系統化と各教科との横断的なつながりを図った全体計画の見直し。		

NO	自己評価の結果				学校関係者評価の結果		
	評価項目		達成状況	達成度	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	達成状況、自己評価に基づく改善の方策等についての意見等
	大項目	小項目					
7	生徒指導	○生徒・集団との関わりを大切にした積極的な生徒指導に取り組んでいるか。	B	3.50	B 3.33	A 3.67	・具体的方策に期待します。
		自己評価結果の考察と課題に対する改善策 ◎QUテストや各種アンケートを基に教育相談を実施することで、生徒理解と信頼関係ができている。 ●「生徒指導上の問題がない＝生徒の規範意識が育っている」ことではないことを踏まえた生徒指導を行う。			課題の改善に向けた具体的方策 ・生徒に自己有用感をもたせる積極的生徒指導を推進する。 ・QUテスト、アセス、ホット等の生徒理解に関わる検査の研修を実施し、より生徒理解に努める。 ・だめなことはだめといえる、頑張ったことを見逃さずほめることができる教師集団を目指す。		
8	健康安全	○自他の生命を大切にする態度と心豊かにたくましい心身を育てる健康安全教育に取り組んでいるか。	B	3.40	B 3.50	B 3.50	・具体的方策に期待します。
		自己評価結果の考察と課題に対する改善策 ●新体力テストの結果で全国平均を下回っている項目について、改善を図る。 ●全教育活動で計画的に食に関する指導を実施する。 ●生徒に危機回避能力を身につけるための指導の充実を図る。			課題の改善に向けた具体的方策 ・徒歩による登下校の励行と保護者への協力依頼を行う。 ・外部講師を招いた食育指導等を計画的に実施する。 ・避難訓練の事前、事後指導の充実を図る。 ・消防署の協力の下、AED講習を含めた救命救急講習を実施する。		
9	今日的課題	○生涯学習の基礎となる読書を推進し、言語活動の充実を図る読書活動に取り組んでいるか。	B	3.30	B 3.20	B 3.40	・取り組むべく項目に対する自己評価結果や改善に向けた方策の意味が解らない。 ・特別支援教育の項目が「C」評価なのが残念。早急に対策を講じていただきたい。
		○特別支援教育に関し、コーディネーターを中心とした支援体制が整備され、組織的に運営されているか。	C	2.43			
		○全教職員の共通理解のもと、大地震・大津波等の災害を想定した危機管理体制が確立されているか。	B	3.40			
		自己評価結果の考察と課題に対する改善策 ●毎日朝読書に取り組んでいるが、それが読書習慣の定着につながっていないため、新たな取り組みを図る。			課題の改善に向けた具体的方策 ・生徒一人ひとりの読書量がわかる手立て（読書記録カードの作成等）を工夫し、生徒に読書意欲をもたせる。		
10	その他	○自らの進路を切り拓く進路指導、望ましい職業観を育てるキャリア教育に取り組んでいるか。	B	3.40	A 3.67	A 4.00	・今後共課題の改善に向けた指導をよろしくお願いします。 ・素直な子どもたちが、のびのびと学校生活を過ごしているように思います。あいさつ（返事）、礼儀共、中学生としては良くできていると思います。これは先生方のねばり強い指導の賜物です。
		○諸表簿（出席簿・指導要録・健康診断票等）の管理や個人情報の保護等、情報管理が適切に行われているか。	A	3.70			
		○様々な経理について、管理・監査等、適切に処理されているか。	A	3.86			
		○異校種間連携が計画的かつ効果的に行われ、長いスパンでの一貫した教育が推進されているか。（小1プロブレム・中1ギャップの解消）	B	3.30			
		自己評価結果の考察と課題に対する改善策 ●幼小中または小中が連携したキャリア教育、学力向上に向けた取り組みを推進する。 ●学習意欲につながるキャリア教育を推進する。			課題の改善に向けた具体的方策 ・小中連携し、学力向上に向け、家庭学習の習慣化を図る。 ・小中連携し、全国学力学習状況調査やCRTの分析結果を交流し、課題を明確にし、その課題に重点的に取り組む。 ・幼小中12年間のスパンで各年齢で身につけさせることを明確にし、実践していく。		

5　今後の方向性についての校長所見

学校評価で明らかとなった課題解決に重点をおくと共に、学校の教育目標「精一杯努力し、逞しく生き抜く人間の育成」の具現化を目指し、①基礎的・基本的な学力の定着と学習意欲の向上を目指した授業改善、②家庭と連携し基本的な生活習慣の定着と体力の向上、③自尊感情、自己有用感をもたせ、思いやりにあふれ、挨拶をはじめとする将来社会人として最低限必要なマナーを身につけさせる道徳教育の充実を柱とした教育課程の工夫・改善を図っていきたい。